



HULFT アダプタ ご紹介

製品概要

HULFTアダプタとは

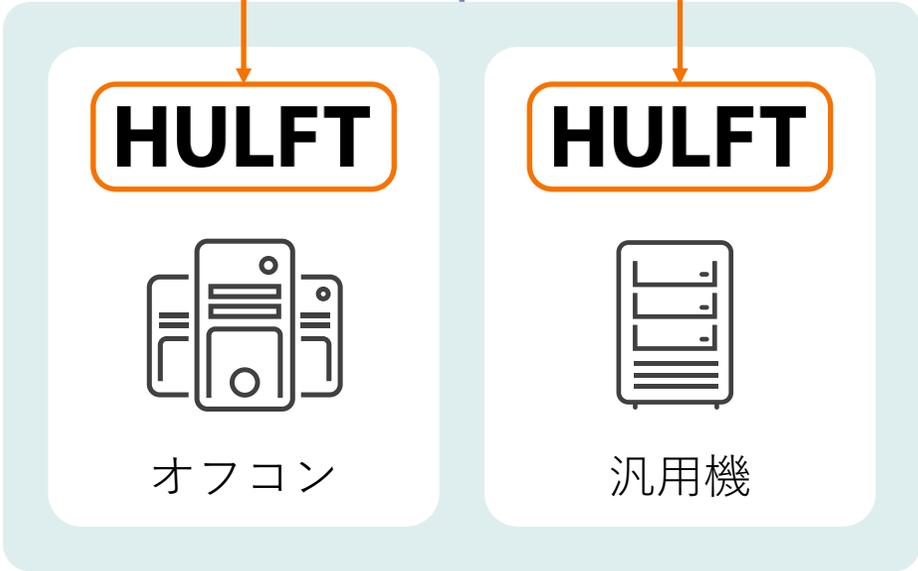
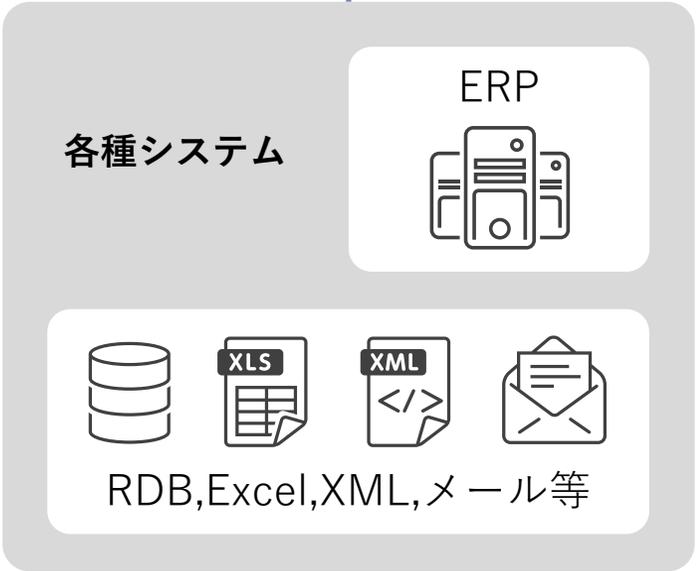
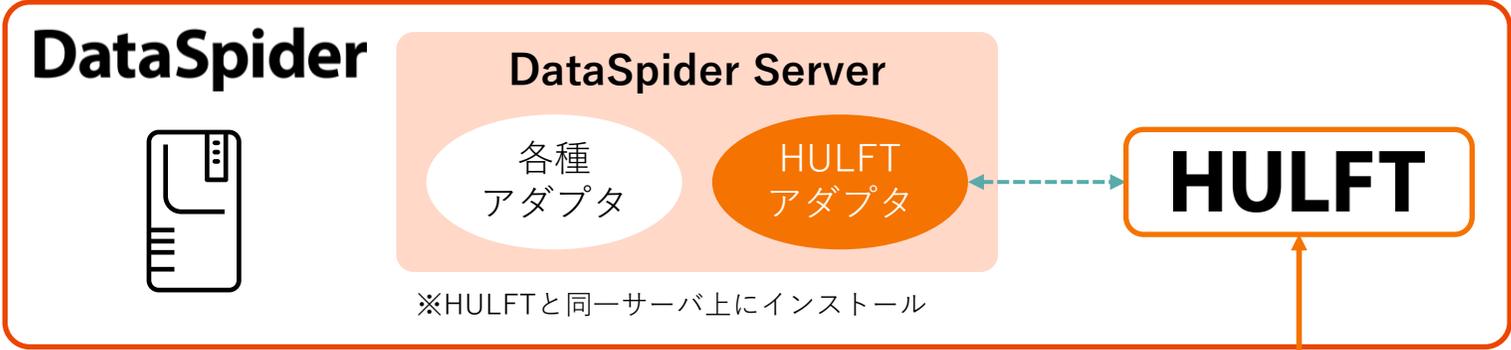
DataSpiderとHULFTを連携することができるアダプタです。

主な特徴

- HULFTによるファイルの集配信をDataSpiderから実行可能
- DataSpiderの持つ高い生産性・操作性を活用して、HULFTのファイル転送をDataSpiderに組み込むことが可能
- HULFTのファイル転送パラメータをGUIで設定可能
- 転送履歴情報を取得可能 ※HULFT Scriptトリガーからの実行時のみ
- 汎用機やオフコンとのデータ連携を実現

製品構成と連携イメージ

HULFTアダプタ製品構成と連携イメージ

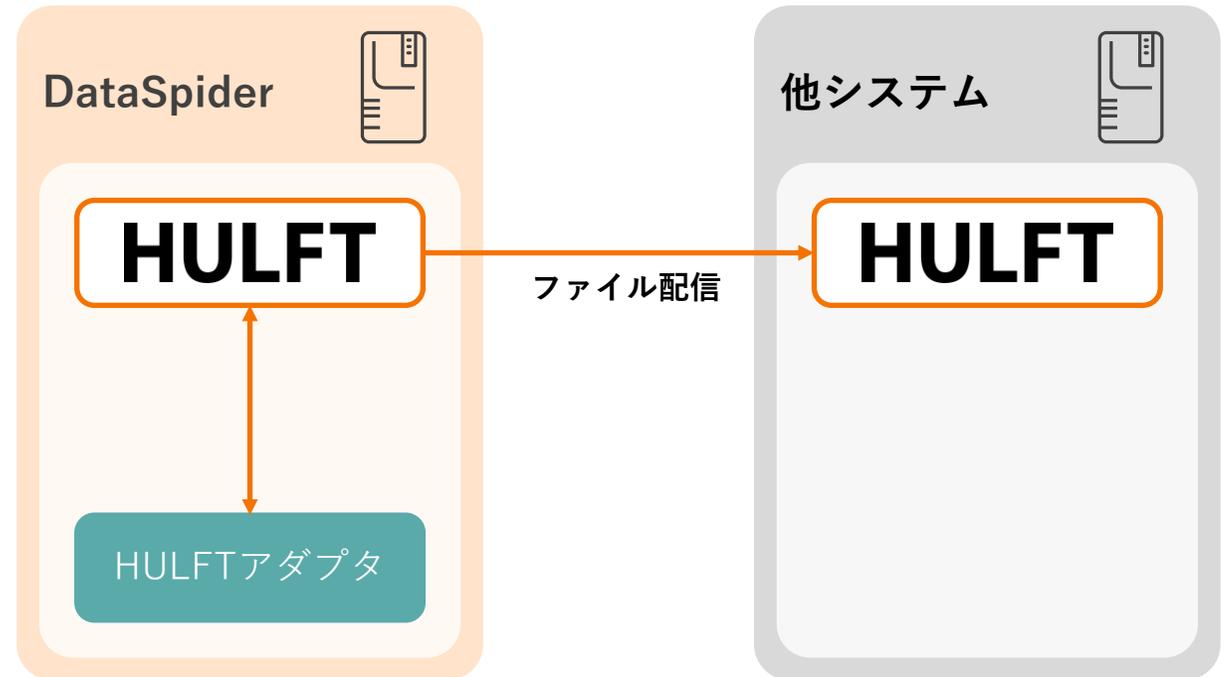


各種処理の設定

各種処理の設定イメージ

要求発行－配信要求

HULFTに登録済みの「ファイルID」を自動的に取得し、相手サーバ上にファイルを配信する処理を行います。
※ utlsendコマンドの実行

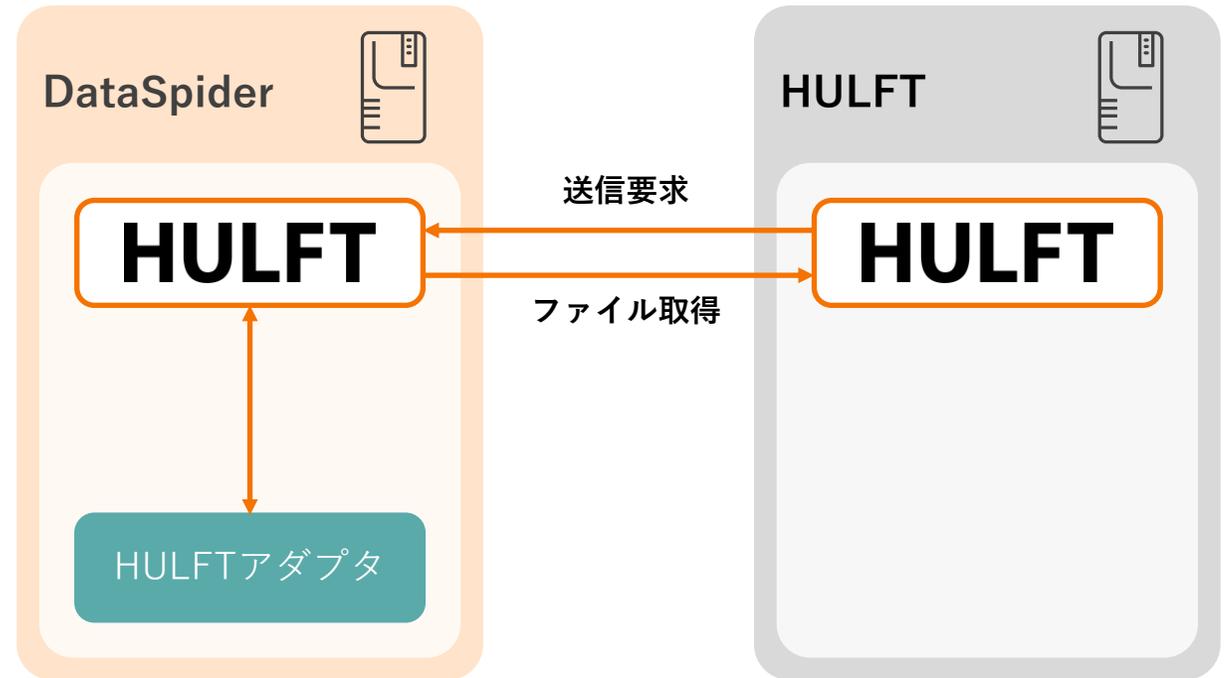
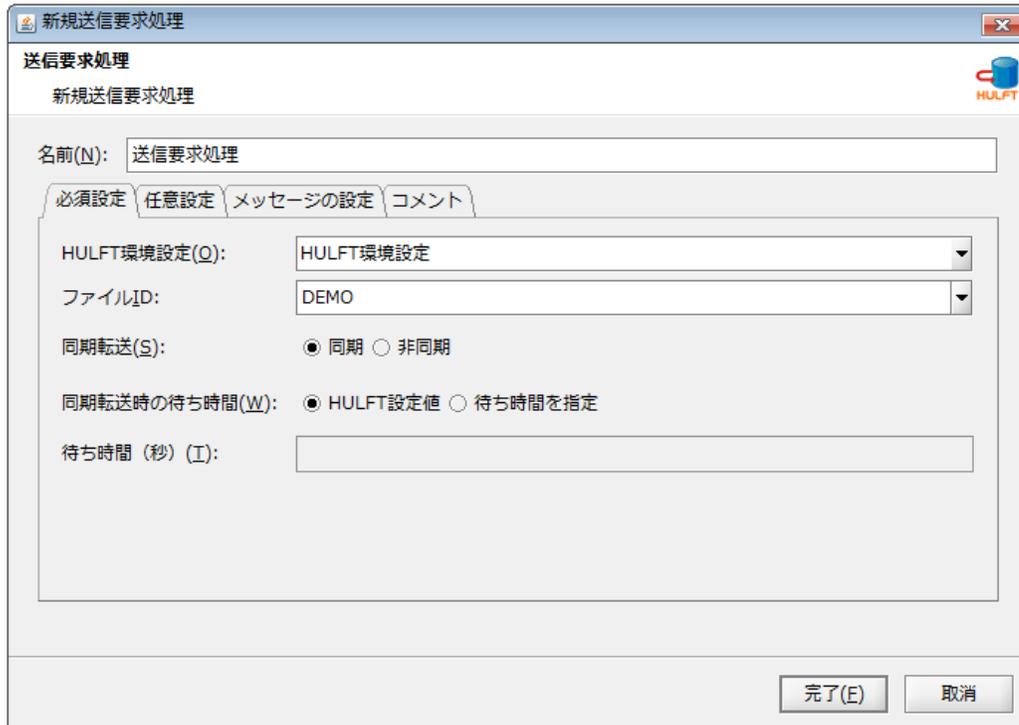


- HULFT配信機能をDataSpiderから実行可能
- HULFT配信関連パラメータを設定可能
- HULFT登録済みの管理情報を自動取得

各種処理の設定イメージ

要求発行—送信要求

HULFTに登録済みの「ファイルID」を自動的に取得し、相手サーバ上のファイルを取得する処理を行います。
※ utlrecvコマンドの実行

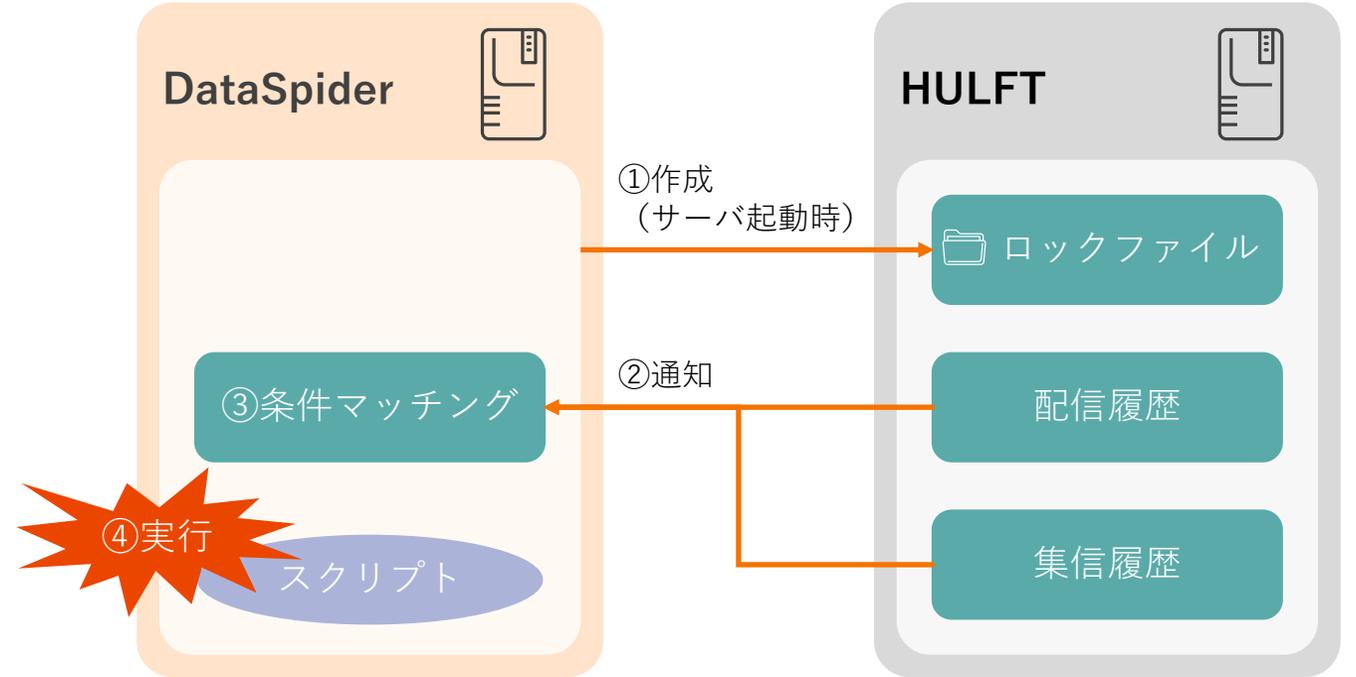


- HULFT送信要求機能をDataSpiderから実行可能
- HULFT送信要求関連パラメータを設定可能
- HULFT登録済みの管理情報を自動取得

各種処理の設定イメージ

HULFT Scriptトリガー

HULFTのファイル転送を検知し、転送履歴が条件に一致した場合にDataSpiderのスク립トを実行します。



- 検知した転送履歴情報は「履歴情報読み取り処理」を使用して参照可能
- 条件項目はHULFT履歴ファイルのフォーマットに対応
ファイルID、ホスト名、完了コード、ファイル名 など

各種処理の設定イメージ

履歴－履歴情報読み取り

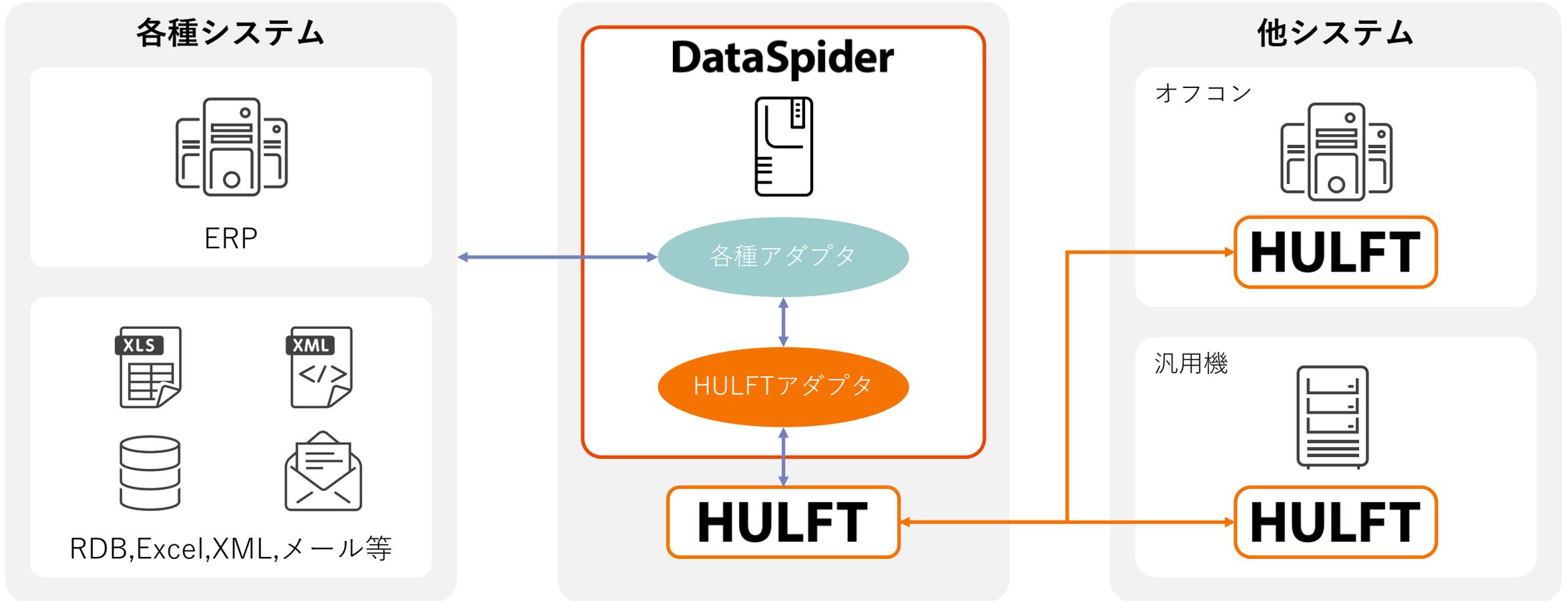
HULFT Scriptトリガーで実行されたスクリプトにおいて、HULFTの転送履歴情報の読み取りを実行します。
下記情報は、DataSpider Servistaのコンポーネント変数として取得できます。

読み取れる主な項目	説明
HS_FILEID	ファイルIDが格納されます。
HS_HOSTNAME	ホスト名が格納されます。
HS_STATUS_CODE	完了コードの下3桁が格納されます。
HS_STATUS	完了コードが格納されます。
HS_FILENM	転送されたファイル名が格納されます。
HS_DATASIZE	データサイズが格納されます。
HS_COUNT	レコード数が格納されます。

適用パターン

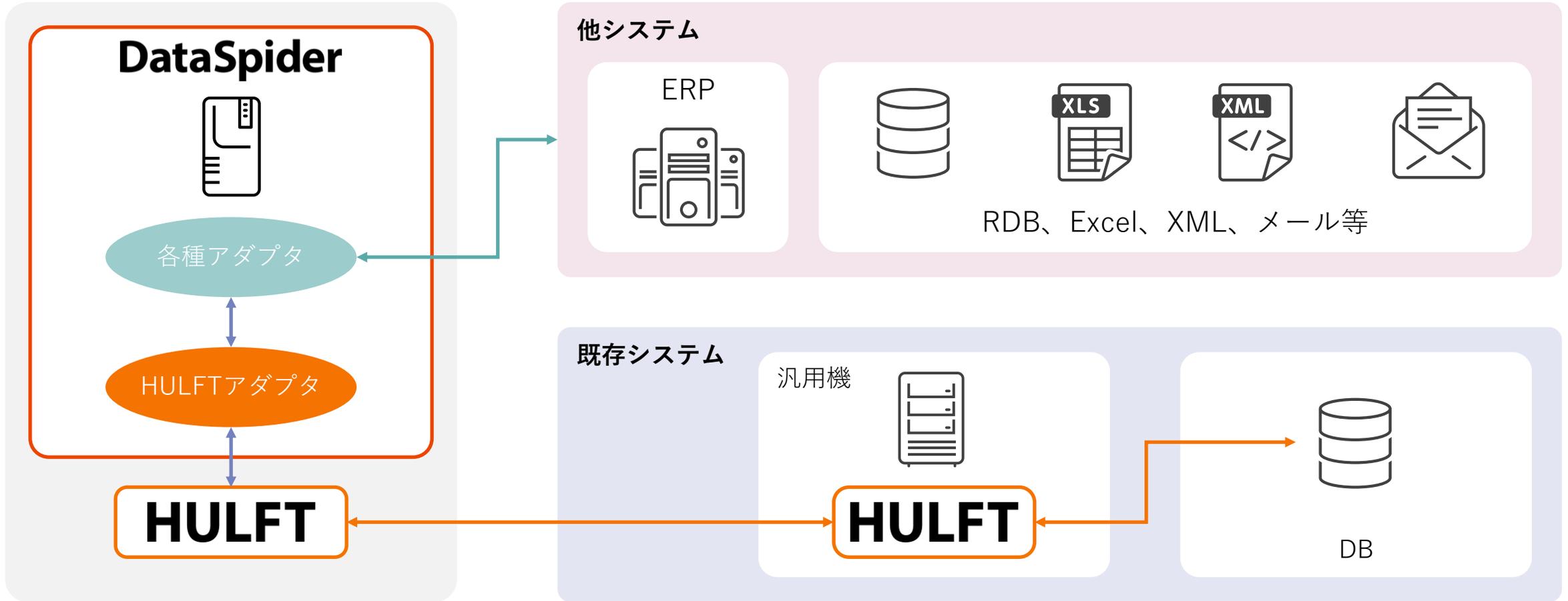
適用パターン：汎用機やオフコンとのデータ連携

汎用機やオフコン上の基幹業務データを、OSの違いを意識せずに、オープン系DBやERPなど各種システムへ連携することができます。



適用パターン：既存のHULFT環境とのデータ連携

既存のHULFT環境と、新規に導入した他システムとの間で、柔軟にデータの連携をおこなうことができます。





<免責条項>

本資料の内容は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されているものであり、今後予告なしに変更されることがあります。よって本資料使用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願いいたします。

なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。